

「癌性髄膜炎 MRI 造影 FLAIR 画像の有用性」に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：平成 28 年 6 月 1 日 ～ 平成 31 年 3 月 31 日

〔研究課題〕

癌性髄膜炎における Gd 造影 3D T2 FLAIR 法の有用性

〔研究目的〕

癌性髄膜炎症例では、磁気共鳴画像の撮像を行う際に造影剤を使用して T1 強調像を撮像しますが、異常所見が出ないこともあります。一回の検査内に、最近使用が臨床的に可能となった MRI 撮像法の 1 つである 3D T2-FLAIR 像を静注造影後に撮像することにより、癌性髄膜炎の描出がより有用であるかを検討するのが本研究の目的です。

〔研究意義〕

造影 MRI にて T1 強調像の他に、より癌性髄膜炎が容易に描出されうる撮像法がないか、を検討することにより、癌性髄膜炎の診断・早期治療方針の決定に役立つと思われます。

〔対象・研究方法〕

臨床的に、担癌症例で転移目的にて MRI 画像を撮像し、髄液所見と臨床所見あわせ癌性髄膜炎と診断された例が対象となります(疑い含む)。通常の撮像を行って得られたそれぞれの造影 T1 強調像と造影 3D T2-FLAIR 像を後方視的にまとめて詳細に比較検討し、どちらの画像が異常所見をとりやすいかを検討します。また、造影 3D T2-FLAIR 像ではどのような追加所見がみられるかも検討します。

〔研究機関名〕

帝京大学医学部放射線科学講座

〔個人情報の取り扱い〕

研究の対象資料の主体は、臨床的に撮像された MRI 画像および資料の後ろ向き検討です。データの収集、管理にあたり、プライバシーを保護し、調査結果の管理には万全を期し、対象の資料、画像における個人情報は匿名化し、他所に漏れることがないように細心の注意を払います。

〔その他〕

画像を用いる後ろ向き研究なので、患者様への負担はありません。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者: 豊田圭子

研究分担者: 古井滋 大場洋 神田知己 中井雄大

住所: 東京都板橋区加賀2-11-1 帝京大学医学部放射線科学講座 TEL: 03-3964-1211 [内線 49321]